

早稲田大学 教育学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<2022年度 一般入試>

【国語教育専攻 専門科目・共通】

●問題冊子11ページ : 共通二 問三

(誤)

~「かまへて、その日はさはりあらせじ」…

(正)

~「かまへて、その日のさはりあらせじ」…

以上

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般入学試験問題
【専門科目】 【国語教育専攻】

解答上の注意

- 一、国語教育専攻の入学試験問題は、「専門科目・選択」（配点60％）と「専門科目・共通」（配点40％）とに分かれています。
- ①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一～選択七）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
日本語学研究指導	松本 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	大津 雄一	選択六 中国古典文学
国文学研究指導	田淵 句美子	
国文学研究指導	内山 精也	
国文学研究指導	堀 誠	
国文学研究指導	石原 千秋	
国文学研究指導	金井 景子	選択七 近代文学
国文学研究指導	五味渕 典嗣	
国文学研究指導	和田 敦彦	

②「専門科目・共通」（共通一～共通二）は、志願者全員が解答する問題です。

- 二、「専門科目・選択」「専門科目・共通」ともに、解答用紙は「問題番号」ごとに一枚ずつ使用すること。
- ・全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。
 - ・「専門科目・選択」については、空欄に「問題番号」（例「選択一」「選択二」など）を必ず記入すること。
 - ・「専門科目・共通」については、「共通一」「共通二」それぞれ所定の解答用紙を用いること。

- 三、解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。

- 四、問題用紙は「十一枚」（本ページ含む）、解答用紙は「三枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 国語教育専攻

「選択一」 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから三題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | |
|------------|----------------|
| A 「イエスシ」読本 | B センテンスメソッド |
| C 雑誌『綴方生活』 | D 一読総合法 |
| E 学力の三要素 | F GIGAスクール構想 |
| G 知徳ノ啓発 | H リーディングスキルテスト |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に解説しなさい。

- | |
|-----------------------------|
| I 芦田・友納論争における「随意選題」 |
| J 探究的な学習と言語能力の育成 |
| K マルチモーダル・リテラシーと批判的思考 |
| L 時枝誠記の古典教育論の特徴 |
| M 大村はま国語単元学習における「学習の手引き」の機能 |
| N 観点別学習状況の評価とその在り方 |

三、「A 話すこと・聞くこと」における「話し合い」の指導と、「C 読むこと」における「話し合い」や他教科における「話し合い」との違い、及びそれらの関係について、

- ①国語科における系統的な指導の観点
- ②カリキュラムマネジメントの観点

以上の二観点から、具体的事例を挙げて詳しく説明しなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」

【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。(解答の際には、
選択した問題番号を明記すること。)

- | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------------|
| A | ヴォイス | B | 異形態 | C | サイレントウェイ |
| D | 音節と拍 | E | 心理言語学 | F | 『てにをは紐鏡』 |
| G | 終助詞 | H | パラ言語 | I | 和文特有語と訓読特有語 |
| J | 大槻文彦 | K | 方言圏論 | L | ポライトネス |

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。(解答の際には、
選択した問題番号を明記すること。)

- M 係り結びの機能とその崩壊
N 日本語のテンスとアスペクトの関係性
O 文章分析と談話分析の研究手法・研究目的の違い

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具
体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義・研究の応
用可能性等について多角的に述べなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択三〕 古典文学 (I) 上代文学問題

一、次の (A) ～ (D) のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (A) 『古事記』の三巻構成
- (B) 『日本書紀』神代巻の構成
- (C) 常陸国司解
- (D) 万葉第三期

二、次の (E) ～ (K) のうちから、三題を選択して簡潔に (一題あたり解答用紙五行以内) 説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (E) 稲羽の素戔
- (F) 出雲国造神賀詞
- (G) 柿本人麻呂
- (H) 『万葉集』巻八
- (I) 風土記逸文
- (J) 歌垣歌
- (K) 持統天皇

三、上代文学作品の享受の歴史を踏まえ、それを研究することの意義と、志願者自身の研究方針、研究テーマについて具体的かつ簡潔に (解答用紙一〇行以内) 述べなさい。

(上代文学問題 以上)

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択 四〕 古典文学(Ⅱ) 中古文学

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』と和歌
- (B) 『蜻蛉日記』の特質
- (C) 『源氏物語』の受容
- (D) 和歌と物語

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『竹取物語』
- (F) 『古今和歌集』
- (G) 『とりかへばや物語』
- (H) 『平中物語』
- (I) 『和泉式部日記』
- (J) 『更級日記』
- (K) 藤原定子
- (L) 物語文学の語り
- (M) 平安時代の文学における召人

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」

【国語教育専攻】

〔選択五〕

古典文学

(Ⅲ)

中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。

- ① 『平家物語』に見られる仏教思想について
- ② 琵琶法師の平家語りについて
- ③ 『将門記』『陸奥話記』の特質と文学史的な位置づけについて
- ④ 『今昔物語集』の特質と文学史的な位置づけについて
- ⑤ 官廷女房の役割・機能と文学形成について
- ⑥ 中世における題詠歌と贈答歌について
- ⑦ 鎌倉時代物語と日記文学の関係について
- ⑧ 伝本研究の意義について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。

- ① 承久記
- ② 方丈記
- ③ 義経記
- ④ 吾妻鏡
- ⑤ 古事談
- ⑥ 定家八代抄
- ⑦ 源家長日記
- ⑧ 千五百番歌合
- ⑨ 続後撰和歌集
- ⑩ 正徹物語

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択六〕 中国古典文学 問題

〔一〕 欧陽脩「秋声賦」の一節である。これを読んで、設問に答えなさい。

歐陽子方夜讀書、聞有聲自西南來者。悚然而聽之曰、「異哉。初淅瀝以蕭颯、忽奔騰而砰湃、如波濤夜驚、風雨驟至。其觸於物也、縱縱錚錚、金鐵皆鳴、又如赴敵之兵、銜枚疾走、不聞號令、但聞人馬之行聲。」^①予謂童子、「此何聲也。汝出視之。」童子曰、「星月皎潔、明河在天。四無人聲、聲在樹間。」予曰、「噫嘻、悲哉、此秋聲也。胡爲而來哉」。蓋夫秋之爲狀也、其色慘澹、煙霏雲斂。其容清明、天高日晶。其氣慄冽、砭人肌骨。其意蕭條、山川寂寥。^②故其爲聲也、淒淒切切、呼號憤發、豐草綠縹而爭茂、佳木蔥籠而可悅、草拂之而色變、木遭之而葉脫。其所以摧敗零落者、乃其一氣之餘烈。

〔設問一〕 傍線①「予謂……來哉」を、書き下し文にするか、現代中国語の発音記号（ピンイン）で書くか、いずれか一つを選んで答えよ。

〔設問二〕 傍線②「故其……餘烈」を和訳せよ。

〔設問三〕 作者欧陽脩について知るところを記せ。

〔二〕 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 「文言」と「白話」の小説史的展開について

イ 「新楽府」と「古文復興」について

ウ 中国文学と政治の関わりについて

エ 日中比較文学の題材と方法について

オ 漢文教育における「日本漢文」の意味について

〔三〕 次の(A)～(J)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

(A) 詩の六義

(B) 許慎

(C) 「高唐賦」

(D) 『滄浪詩話』

(E) 江西詩派

(F) 『和漢朗詠集』

(G) 「詩中有画」

(H) 三言二拍

(I) 空海

(J) 魯迅「狂人日記」

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」

「国語教育専攻」

「選択七」近代文学

一 日本近代文学の中心的なテーマについて、あなたの考えを述べなさい。

二次の(A)と(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 深刻小説について
- (B) 自然主義文学について
- (C) 関東大震災と文学について
- (D) 転向文学について
- (E) 日本近代文学における検閲と言論統制について

三次の(A)と(G)の中から三題を選択して説明しなさい。

(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- (A) 「不如帰」
- (B) 泉鏡花
- (C) 『明星』
- (D) 『白樺』
- (E) 菊池寛
- (F) 吉屋信子
- (G) 「墮落論」

【共通一】

次の文章は千葉一幹『コンテクストの読み方』（NFT出版、二〇二一年）の一節です。これを読んで、あとの問い（次ページ）に答えなさい。

「ぼくは、タヌキです」と、唐突に口走る人間が、あなたの眼前にいます。さて、あなたは、この人は何を言っていると考えますでしょうか。

自己紹介の一種？

何かの妄想に駆られた者の常軌を逸した発言？

この言葉は、ある会話の一部でした。その会話を再現すると以下ようになります。

「ぼくは、タヌキです」

「私は、キツネ」

「ぼくは、モリだ」

これはどんな会話でしょうか。やはり、何かの告白？ あるいは、自分を何かに喩えている？ それとも、学芸会の役決め？（それにしても、森の役とは、ちよつと哀れを催します）どれも、もうひとつしつくりとこない解釈です。

ヒント。これは、特別の人が特別の場所で交わす会話ではありません。日本中いたるところで、ある時間になると交わされるものです。そう、これは蕎麦屋での会話です。つまり、蕎麦の注文をしている。きつね蕎麦、たぬき蕎麦、もり蕎麦ということですが。

なぜ、このような奇妙な会話をここで取り上げたかという点、この三人の会話の意味を考へることが、実は文学作品を読み解くことに直接結び付くと考えたからです。

相手の話の内容、あるいは文章の意味を理解するには、そこで使われている語の意味を把握する以上に重要なことがあります。それは、その文章や会話を成立させている「コンテクスト」を理解することです。会話や文章で使われている言葉に知らないものがなくても、このコンテクストの共有が成り立っていないと、文章や会話の意味がまるでわからないということにもなってしまうます。実際、右で挙げた会話で使われた単語で、読者のみなさんが意味を知らないものはひとつとしてなかったでしょう。にもかかわらず、この会話の意味をスムーズに理解できなかった方はかなりいたはずですが。

忘れてならないのは、このコンテクストは多くの場合、文章や会話で示されることはむしろ少ないということです。蕎麦屋に入つて、キツネだ、タヌキだ、モリだと注文するとき、いちいちここは蕎麦屋だということを確認などしないでしょう。

つまり、日常生活において、今はどういう状況で、どこにいるかなど、逐一明示してから会話することはありません。数年前からしばしば使われるようになった「空気読めよ」といった表現は、この明示されないコンテクストを理解するという点に他なりません。

会話と同様に文章もまた、このコンテクスト抜きには語れないものです。そして、文学作品について語るとは、結局、その作品（テキスト）を特定のコンテクストと結びつけて語るといふことなのです。文学における特定のコンテクストとは、たとえば精神分析学的視点であり、あるいは社会学的視点、さらには記号論的視点などのことです。同じ作品でも、精神分析学的視点で読んだときと社会学的視点で読んだときとは、当然その解釈は違ってきます。

文学について語る場合、人は、自分なりに作品の背景としてのコンテクストを設定し、それに作品を関連づけて語るのです。その解釈が説得的なものと感じられるのは、作品とコンテクストがなめらかに結びついているからです。また、作品についての新しい（読み）とは、今までにないコンテクストのもとで作品について語っているということです。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般入学試験問題

「専門科目・共通」

「国語教育専攻」

したがって、文学作品について語るには、まずこのコンテキストの設定の仕方を知らねばなりません。そのコンテキストの設定に関する多くの方法を知っていれば、作品についてさまざまな読み方が可能となり、またこれまでにない斬新な視点で作品について語ることもできるようになります。

こうしたコンテキストの設定は、なにも文学について語る場合のみに限定されるものではありません。ある事件、事象について説明する場合、われわれはなんらかのコンテキストを設定して語ります。その際、その設定の仕方が巧妙であればあるほど、その説明は説得力を持つのです。

【問い】

生徒の「まちがった」答えがコンテキストを変えれば「正しい」答えになる例を自分で考えて例示し、その例に則して、教育におけるコンテキストについて考えるところを述べなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般入学試験問題

「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

【共通二】 次の文章は『十訓抄』第七の一節である。よく読んで、後の問いに答えよ。

世の常にある人の、いみじく手づつに、心づきなく見ゆるは、不覚に思慮なきものを、人前に取り出づることは、ことかくともす（A）ことぞかし。さしあたりて、人なき時は、よくよく教へいまして、ある（B）やう、いひ知らせて、取り出だせるに、そのうへ、なほ過ちをも、ひがごとをもし出づるは、「さ思ひつること」とて、いひがひなければ、さてこそあれ、それをうちにては、いひも教へおかで、人前にて声を立てて、さいなみ腹立つこそ、人目見苦しく、すべて、その日のこともさむる心地すれ。それに従者もあひそへて、つきづきしくのべしじめ、あつかひをること、主に劣らずにくけれ。「客人の前には、犬をだにもいさかふまじ」とこそ、文にも見えたれ。まして人を勸当し、興を、さまさむこと、あるべきにあらず。かやうのことを見るには、よそにても汗あふること多かり。人々寄り合ひて、さるべき遊びなどせむには、たとひ身にとりて、やすからず、くちをしきことにあひたりとも、⁴かまへて、その日のさはりあらせじとはからふべきなり。「その人のありて、しかしかの折、ことさめにき」といはるる、くちをしきことなり。しかれば、行かぬさきよりはからひ、悪しかるべき所へは、さし出でぬにはしか（C）。もし、悪しくはからひて、まじり居なむのちは、おぼろげならぬ身の、いたづらになるべきほどの疵なるべくは、⁵ことなきさまにいひなし、たはぶれにもてなして、おとなしかるべきなり。いはむや、わが使はむ人の、あやしからむために、いませせがみ、さいなむこと、いとど見苦しかるべし。

※WEB掲載に際し、以下出典を追記しております。新編日本古典文学全集51「十訓抄」による

問一 (A) (B) (C) には、助動詞「べし」、「まじ」、「じ」のいずれかが入る。それぞれに入る語を適切に活用させて答えなさい。

問二 傍線部1「し出づる」、傍線部2「のべしじめ」、傍線部3「さまさむ」の主語は誰か。

次の中からそれぞれ選び、符号で答えなさい。

イ 主 ロ 客 ハ 不覚に思慮なきもの ニ 従者 ホ 語り手

問三 傍線部4「かまへて、その日はさはりあらせじ」を解釈しなさい。

問四 傍線部5「ことなきさまにいひなし、たはぶれにもてなして、おとなしかるべきなり」を解釈しなさい。

問五 『十訓抄』は、十の教訓をあげ、それぞれにふさわしい話を集めた説話集である。本文は「第七」に収められているが、その「第七」の教訓を次の中から選び、符号で答えなさい。

- イ 朋友を撰ぶべき事
- ロ 忠直を存ずべき事
- ハ 懇望を停むべき事
- ニ 思慮を専らにすべき事
- ホ 人に恵みを施すべき事